

ガバナー就任の挨拶

第266地区ガバナー 伊藤 恭 一

輝かしい歴史と伝統のある当266地区のガバナー・エレクトとして、この地区協議会において菅生ガバナーより紹介をうけ、共に奉仕するわれわれの年度の開幕の挨拶を申し上げることは、私の人生において、最大のイベントであります。

顧みますと昨年5月の新宮における地区大会においてガバナーにノミネートされ、以来、物心の準備を経て、去る4月28日から5月5日まで、米国フロリダ州ボカトンにおいて行われました国際協議会に参加することを許され、密度の高い研修を、全世界より集まった378名のガバナー・ノミニエーと共に受講し、如何にしてガバナーの重責に応えるかという手段と精神を与えられました。そして4万人という記録的な登録者のあった東京の国際大会の最終日5月18日に正式にガバナーにエレクトされた次第であります。これはひとえに当地区の全ロータリアンの御高配の賜であり、ここに深く感謝申し上げるものであります。

同時に、来るロータリー年度は皆様の御協力の下に皆様と共に奉仕の実を挙げられますように、御援助を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

さて、全世界152カ国の、17,593クラブに属する818,800人のロータリアンは「ロータリーの綱領」に則り、自主的に運営されるべきものであります。何と申しましてもR.I.会長の指導力がその骨幹となることは論を俟ちません。その意味において我々の年度の会長MR. CLEM RENOUFのプログラムやメッセージを正しく理解していただきたいと存じます。各クラブ会長宛に届けられたメッセージ

と図柄を注視していただきたい。

二つの手と二つの地球が描かれて、英語ではREACH OUT…、和文では手をさし伸べよう…と記されています。

このビジョンを掲げた我々の会長は1949年からオーストラリア、クィーンズランド州のナンブールR. C.の会員で、地区ガバナーやR. I.の理事や委員長も勤められました。職業は会計士であります。

さて、この二つの手をレヌーフ会長は「友情のしるし」とも「助け合うしるし」とも「助けを求める手」とも「助けるための手」とも「激励のしるし」とも言われましたが、手が二つあることは、神が、我々に、与えるためと、受けるための両様の能力と機会をもっていることを思い出させるために二つの手を授けられたのだ、と言いました。では二つの地球の意味するものは何でしょう。それぞれ違う世界の半面が描かれており、一方に立って他方を眺めるならば、我々は相手をどの程度に知り、関心を持ち、理解しているだろうか？

ロータリーという素晴らしい国際的結合において、どんな手をうつことができるか？既にどんな方策を講ずることができたかとレヌーフ会長は訴えたのです。

このさし伸べられた手と隔だてられた世界は訴え(PLEA)と挑戦(CHALLENGE)を意味するテーマ REACH OUT…、手をさし伸べよう…を暗示しているのだ、この言葉は行動を求める言葉だ、(THESE ARE ACTION WORDS)と力強く訴え、ふところ手をしたまま手をさし伸べることは出来ないし、ぶしょう者やいくじなしや悲観論者には通用する言葉でなく、ロータリーに身を置くもの

として、次の四つの事柄に手をさし伸べようと促しました。

職域で (ACROSS YOUR DESK)。

職業奉仕において自分の職業上の高い道德的目標を示し、奉仕の理想を伝えようと訴えています。

会場で (ACROSS A ROOM)。

クラブ奉仕を実践するため行動するロータリアンになるよう励まそうと訴えています。

街に出て (ACROSS A STREET)。

社会奉仕に機会を求め、老人には理解と関心を、青少年には指導と激励をと訴えています。

広く世界で (ACROSS THE WORLD)。

国際奉仕活動を通じてあらゆる国の人々に手をさし伸べようと訴えています。

以上の如くレヌーフ会長は四大奉仕部門はそれぞれ異なる焦点と強調点をもっているから各ロータリアンは自分に最も適した部門をさがし求めるように要請し、R.I.会長の挨拶にも示されたヘレン・ケラーの次の言葉を我々の祈りとしようと訴えました。

「われわれの祈るべきことは、自分の力にふさわしい任務が与えられることではなくて、自分の任務にふさわしい力が与えられることではない。」

菅生謙三直前ガバナーへの感謝

伊藤 恭一

昨秋の或る日菅生ガバナーにお目にかかった折、「さすがの私も少々疲れたよ」とおっしゃったのでした。ガバナー・ノミニーとして御心労を想像はしてましたが、その夕、食事^ヲを頂き乍らガバナーの任務、苦心談、書類作成等について生の御教示を受けました。

菅生さんはロータリー歴を通じて、自らの御職業を適正厳格に反映され、御所属のクラブの数多くの職責を果され、更に地区の組織においても数多くの功績を残されたことは万人の認めるところであります。

特に後継者の私に対する御指導、御教示は筆舌に盡し得ません。禅語の「啐啄」の通りに菅生親鳥のさとしを卵殻の中の伊藤雛が正しく受けとめればよいのですが、もどかしくも、腹立たしくも思われたでしょうに、終始後継者に下された御配慮は、今日になって如何に尊いものだったかを痛感致します。

昨年6月のサンフランシスコの国際大会で菅生さんにお目にかかった際、その直前に行

われた八日間のボカラトンにおける国際協議会の疲れの姿はみじんもなく、かえって自信にあふれたという顔付の菅生さんに私は驚異を感じました。

果せるかな、御帰国後直ぐ行われた地区協議会において、JACK DAVIS R.I. 会長の **SERVE TO UNITE MANKIND** というテーマについて感激に満ちた講演をされ、更にロータリーの原理「SERVICE ABOVE SELF」に基き「自然の恩恵は限りなく大きいという感謝の気持」を体して **SERVICE FROM THE FEELING OF THANKS GIVING** (感謝の気持から出たサービス) をサブテーマに掲げられたことを私は高く評価します。

一年間のガバナーとしての滅私奉公の実践をされた菅生さん、どうか健康に充分御留意願ひ、従来否従前以上の御指導御援助を頂くよう心からお願い申し上げ、感謝のことばと致します。